

学校法人 城西大学

JOSAI INTERNATIONAL CENTER

for the Promotion of Art and Science (JICPAS)

学校法人 城西大学

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

☎03-6238-1300

http://www.josai.jp/

Newsletter

学校法人城西大学創立40周年記念
東京紀尾井町キャンパス開設記念
秋期シンポジウム・講演会特集号

Josai University Corporation

3-26 Kioi-cho, Chiyoda-ku, Tokyo ☎03-6238-1300 http://www.josai.jp/

No.2



雲として何光年にもわたる範囲に広がっていますが、色は本

2005年9月17日に国立天文台台長の海部宣男氏を迎えて、東京紀尾井町キャンパスB1Fホールにおいて題記講演会を理学部主催で行いました。当日の参加者は一般67名、教職員44名、大学院生24名、学部学生79名で、ホールに入りきれない学生は3階視聴覚教室において聴講することになりました。その代わり講演会終了後のティーパーティーに出席し、質問があれば海部氏に直接聞いてもらうことにしました。

講演会は田中昭学長の挨拶の後、1時間半にわたり海部氏のすばる望遠鏡でどのような観測が行われているか、という話がありました。宇宙望遠鏡と違って地上望遠鏡では空気の層を通して宇宙を見るため良く見えないのではないのかという先入観がありますが、すばる望遠鏡では標準の星からの光を使用して空気の揺らぎを補正するシステム（補償光学装置）を開発し、得られる画像がハッブル宇宙望遠鏡に匹敵するという驚くべき成果を挙げています。口径8.2mの主鏡は世界最大級です。話のはじめにすばるで観測された非常に数多くの星雲と銀河の美しい画像が示されました。星雲は虹色に近いカラフルな雲として何光年にもわたる範囲に広がっていますが、色は本

講演会 「すばる望遠鏡で見た宇宙」

2005年9月17日（土）午後2時～午後3時30分
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

講師…海部 宣男（国立天文台台長）
主催…城西大学理学部



物の色で原子からの発光で、星雲中の黒い雲に沿って多数の星ができていく様子が示されました。すばるの観測で力を入れているものの一つは遠くの銀河の観測です。宇宙の創世は137億年前ですが、すばるでは128億光年遠方の銀河を発見しており、知られている最も遠方の銀河10個の内、7個はすばるで発見されたものです。遠方の銀河の観測は宇宙の創世に関する情報を与えます。遠方の銀河を望遠鏡で見ると鎖状に連なっていたりします。このような宇宙の大構造等を説明するために、望遠鏡で見える物質は宇宙構成の3%であり、見えないので正体が分からないダークマターが30%までは確かですが、残り70%はダークエネルギーになっているとの話でした。

次いで東京天文台から宇宙に飛び立ち、50億光年遠方まで行く間に太陽系や我々の銀河がどのように見えるかという動画が示されました。これは巨大な空間スケールの話ですが、巨大な時間スケールの話としてビックバンから現在まで宇宙がどのような過程を経て進化を遂げているかという話がありました。このような考察をすると当然の帰結として宇宙において惑星と生命は普遍的なものとなりま

す。その観測が大きなテーマとなっていて、

日本の子供たちの理科離れは深刻であり、日本化学会、日本物理学会、諸大学等それぞれの立場でその解決に向けて知恵を絞っているところ。今回、創立40周年・紀尾井町キャンパス開設記念講演会に理学部として企画する機会をいただき、我々が関係するサイエンスの分野で我が国が最先端を行っているものは何かと考えた末に、海部氏にすばるの話をお願いすることにしました。まさに期待にたがわぬ講演であり、このように真に素晴らしい我が国のサイエンスを選び出し、提示していくことも学生はいままでもなく、社会に対する大学の使命なのではないかと思われ



すばるでも太陽系以外の惑星の発見に力を入れています。世界中で現在100個発見されていますが、互いに手の内を明

かさずに新たな発見に向けて熾烈な競争が行われていることです。天文学の考察としての生命誕生の要件が提示され、その結果海部氏は惑星大気中に酸素を発見すれば生命（バクテリア的生命）存在の強い証拠になると考えていること、その発見に向けて巨大宇宙ベース望遠鏡が構想されているということと話を締めくくられました。その後、聴講者から多数の質問がありました。

非常にわかりやすい講演でしたが、素晴らしいのは海部氏が啓蒙のお話としてではなく、サイエンスとしてお話しくださったことです。それだけに迫力があり我々がめったに聞くことのできない講演と感じ、海部氏に深く感謝する次第です。

シンポジウム

「ともに生きる地域社会を創るために」

2005年10月1日(土) 午後2時～4時30分
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

パネリスト…大橋 謙策(日本社会事業大学学長)

炭谷 茂(環境省事務次官)

野沢 和弘(毎日新聞社社会部副部長)

コーディネーター…大谷リツ子(城西国際大学福祉総合学部部長)

主催…城西国際大学福祉総合学部

後援…社会福祉法人 全国社会福祉協議会

去る10月1日(土)のさわやかな秋空の下、城西国際大学福祉総合学部主催・社会福祉法人全国社会福祉協議会後援による学校法人城西大学創立40周年記念・東京紀尾井町キャンパス開設記念シンポジウム「ともに生きる地域社会を創るために」が開催されました。

社会福祉を取り巻く環境の変化をふまえて、地域で住民が互いに支え合い、支援が必要な人に手をさしのべることのできる福祉社会を構築して行くには、「今、必要なものは何か」「我々が共有すべき理念は何か」をともに考える事をテーマとして企画されました。

パネリストに、大橋謙策氏(日本社会事業大学学長)、炭谷茂氏(環境省事務次官)、野沢和弘氏(毎日新聞社社会部副部長)の3名



をお迎えして、大谷リツ子福祉総合学部長がコーディネーターを務めました。

当日は300名を超える方々に参加していただき、東京紀尾井町キャンパスのB1Fホールには入

りきれず、やむなく学内関係者や学生には、視聴覚教室にて聴講してもらったほどでした。城西大学の教員及び学生や坂戸市の民生委員の皆様も参加され、記念行事に相応しいシンポジウムとなりました。

開会の挨拶の後、第一部として各パネリストに、それぞれの立場から議題に対して専門的なコメントをしていただきました。

大橋氏は、地域コミュニティづくりとコミュニティソーシャルワークの必要性について、実際の問題に触れて体得して行くことの重要性などを指摘されました。

炭谷氏は、ソーシャル・インクルージョンの理念と地域での展開について、ご自身の経験に基づいて述べられました。

野沢氏は、地域で障害者が生活するために、

「ともに生きる地域社会を創るために」

パネリスト 大橋謙策(日本社会事業大学学長)

炭谷茂(環境省事務次官)

野沢和弘(毎日新聞社社会部副部長)

コーディネーター 大谷リツ子(城西国際大学福祉総合学部部長)

現在も続く権利侵害や差別をなくす実践を進めることが緊要であることを指摘されました。

続いて第2部のディスカッションでは、フロア参加者からの質問に答える形で、活発なディスカッションが展開されました。

本シンポジウムの総括として、地域社会でともに生き、支え合える体制・基盤を創って行くためには、具体的な課題に焦点を定めて、明白な理念を掲げて実践を継続することが基本であることを確認するに至りました。

最後に、本シンポジウムを開催するにあたり、ご支援・ご協力いただきました方々に、改めて深く感謝申し上げます。



シンポジウム

「江戸時代の日本人は日本をどう発見したか」

2005年10月22日(土)、10月29日(土) 午後1時～5時
東京紀尾井町キャンパス3F302教室

1. 10月22日(土)

パネリスト…芳賀 徹(京都造形芸術大学学長)

ヘルベルト・プルチョウ(城西国際大学教授)

板坂 耀子(福岡教育大学教授)

小島 康敬(国際基督教大学教授)

2. 10月29日(土)

パネリスト…源 了圓(日本学士院)

浜田 啓介(京都大学名誉教授)

笠谷和比古(国際日本文化研究センター教授)

田口 昌樹(菅江真澄研究会副会長)

主催…城西国際大学比較文化研究所

10月22日(土)と29日(土)の2週にわたり、城西国際大学比較文化研究所主催のシンポジウム「江戸時代の日本人は日本をどう発見したか」が行われました。

初日22日は東京大学名誉教授・京都造形芸

術大学学長の芳賀徹氏、UCLA名誉教授・城西国際大学教授のヘルベルト・プルチョウ氏、福岡教育大学教授の板坂耀子氏、国際基督教大学教授の小島康敬氏をお迎えし、次いで29日は日本学士院の源了圓氏、京都大学名



板坂 耀子氏



小島 康敬氏

誉教授・花園大学教授の浜田啓介氏、国際日本文化研究センター教授の笠谷和比古氏、菅江真澄研究会副会長の田口昌樹氏をお迎えしました。

22日の最初の発表者である芳賀徹氏には、「観照から観察へ——18世紀における旅と日本発見」というテーマで発表していただきました。内容としては、旅文学における内面的集中、例えば松尾芭蕉の精神鍛錬から外面的観察など、江戸時代に現れた新しい紀行である「外」への集中に関する問題についての発表となりました。

板坂耀子氏には、「紀行のものの見方」というテーマで発表していただきました。内容としては、江戸紀行に見られる都市の見方について述べられ、京都、大阪、長崎などの描写が多い割に、江戸について詳しい文書が紀行には見つかからない事を指摘いただきました。小島康敬氏には、「自己の内にある〈日本〉の発見——津軽の民俗者・平尾魯僊」というテーマで発表していただきました。国学がどう民俗学を発達させたか、その経緯を分析した発表となりました。

最後に、ヘルベルト・プルチョウ氏は「江戸時代の日本人は日本をどう発見したか」というテーマについて、江戸時代に生まれた新しいモノの見方、モノの考え方、そして偏見の無い多様性に富んだ日本の発見について発



笠谷 和比古氏



田口 昌樹氏



芳賀 徹氏



ヘルベルト・プルチョウ氏

表しました。

第2部となった29日の最初の発表者である源了圓氏は、「江戸後期、ならびに幕末前期における高潔的知識」というテーマを通して、江戸時代の思想史と合理主義、そして科学的なモノの見方について述べられました。

浜田啓介氏は、「日本相対化への道——明朝出版文化と学の相対化を経過して」と題して発表し、明の出版文化が日本の出版文化にどのような影響を与えたかについて述べられました。

笠谷和比古氏は「徳川吉宗の享保改革と国産開発政策」というテーマで、日本全国の資源と薬草などの探検旅行が、日本の発見とどう結びついたかについて発表されました。また本草学から博物学への展開と、紀行に見られる博物学的モノの見方との関連についても取り上げました。

田口昌樹氏には「雪国の常民を記録した旅人〈菅江真澄〉」というテーマで発表していただきました。なぜ菅江真澄は、克明に東北や蝦夷の民俗の風習、社会、文化などを描く事ができたかなどについて語りました。

2週にわたり、様々なテーマによる発表が行われた本シンポジウムは、質疑応答も非常に盛り上がり、最後まで活発な意見のやりとりがなされていました。



源了圓氏



浜田 啓介氏

講演会

「恋愛思想の歴史——比較文化論的に——」

2005年11月12日(土) 1時30分～3時
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

講師・小谷野 敦

(比較文学研究者・文芸評論家／国際日本文化研究センター客員助教授)
主催・城西国際大学人文学部

11月12日(土)、東京紀尾井町キャンパスにおいて、城西国際大学人文学部が主催する学校法人城西大学創立40周年記念講演会が開催されました。

講師に小谷野敦氏を迎え、演題は「恋愛思想の歴史」で行われました。当日は一般参加者、人文学部の教員や学生など合わせて約150人が会場を埋め、出版関係者も多く見受けられました。

小谷野氏は現在、国際日本文化研究センター客員助教授、東京大学非常勤講師として活躍されており、ベストセラーとなった『もてない男——恋愛論を超えて』(1999年)で売り出した気鋭の文芸評論家です。また、様々な作家や学者の作品や学説を、歯に衣着せずに批判する辛口の評論家としても知られています。著書は非常に多く、かつ多ジャンルにわたります。しかしデビュー以来、小谷



野氏の作品は恋愛の歴史や思想に重点が置かれており、今回の講演もその流れを汲むものとなりました。



講演の内容は多岐にわたりましたが、小谷野氏の論点は、「恋愛」というものは12世紀に西洋で発生し、明治日本に近代化とともに輸入されてきたという説があるが、これは間違っており、日本にも『源氏物語』に見られるように昔から恋はあったというものです。

一方で小谷野氏は、古代の「恋」と明治に日本にもたらされた「恋愛」とは同じものではないとされています。古代の恋は東洋・西洋を問わず男が女に愛を捧げるものであり、西洋では女性崇拜的な恋愛観がその後も底流として残りましたが、日本では中世ごろから女性蔑視的な恋愛観が現れて、江戸時代後期になると男が女を思うのは野暮な事で、女に思われる男こそが粋であるというように変遷してきました。そのため、芝居などでは女に恋をする男は常に敵役でした。

江戸時代の恋は遊里における男女の恋が中心で、そこには相思相愛も見られましたが、明治になってアメリカからキリスト教の背景を持つ恋愛結婚思想が入ってきたため、相思相愛＝恋愛、そして恋愛・結婚・性交は三位

一体という恋愛観が徐々に主流を占めるようになり、昭和も中ごろになっていわゆる恋愛至上主義が定着したとの事でした。

こうした恋愛観の変遷を中心に、プラトニッククラブが本来なら少年愛を言うべきであったのが誤解されてしまった事や、恋愛至上主義が恋愛はだれにでもできるものではないことを忘れていたので誤りであるといった議論を展開していきました。

さらに森鷗外、夏目漱石、与謝野晶子などに対する小谷野氏流の辛口コメントも交えての1時間余りの講演となりました。講演終了後、回収した参加者のアンケート結果からは、面白かったという声が数多く聞かれました。

今回の講演会では、イベントと普段の授業とを結び付ける初めての試みとして講演終了後、会場前において学生たちによるポスター発表「恋愛とその周辺」が開かれました。「結婚式の戦後史」、「ジーンズのジェンダー論」、「恋」と「愛」、「中日の七夕伝説の中の恋愛」、「鴨長明と「恋」、「文覚と西行の「恋」、「恋い死に」について」の7つのテーマの手作りポスターを前にして発表が行われ、大学関係者の他に一般参加の聴衆の皆さんも加わって、にぎやかな内に講演会は締めくくられました。



講演会

「私はどうして作家になったか」

——アメリカで、絵から文学、そして活動へ——

2005年11月19日(土) 午後1時30分～3時
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

講師…米谷ふみ子(作家)
主催…城西国際大学ジェンダー・女性学研究所

11月19日、東京紀尾井町キャンパスB1Fホールにおいて、作家米谷ふみ子氏を講師に迎え、講演会「私はどうして作家になったか——アメリカで、絵から文学、そして活動へ——」が開催されました。

講演タイトルにあるように講演は、米谷氏の成長期からシニア・ステイゾンとなった現在までの軌跡と、そして最近の日米社会を初めとする世界の状況を、社会や人を見る鋭い視点と独特の語り口によって語っていただき、様々な示唆を与えてくださる内容でした。

米谷氏が作家になると決意したのは遠く小学校時代に遡るという話から講演は始まりました。近所の閨秀画家に師事し、3年生の時に絵が貼りだされて「絵描き」になろうと決心したそうです。しかし、ちょうどその頃日中戦争が始まり、やがて真珠湾攻撃と、時代は戦争一色になってしまい、物資も劣悪な状態となっていく、神戸の六甲から大阪の女学校に通う頃には空襲



が激しくなっていたそうです。

最終後、国文学科に進学しますが絵に没頭して、5年目に二科展に合格しました。ところが、画壇の男性中心で階級的な状態を目の当たりにして、海外、特にヨーロッパ行きに夢を描きますが、当時は身元保証人がいないと海外への渡航は不可能な時代でした。アメリカ各地に手紙を書いて渡航の可能性を探る一方で、外貨がないと海外へ出られないことから英文速記を習い外国商社で働き出しました。やがて、スライドを送ったニュー・ハンプシャー州ピーターボローにある芸術村から招聘状を受け取り、そこへ行く決心をしました。

1ヶ月の長旅の末に到着した芸術村では、最初に自己主張が大切という民主主義のオリ

エンテーションを受けたこと、夫となる劇作家の男性と出会い、結婚した後、脳障害を持つ子どもが生まれ絵を描く事が困難になってしまい、作家になる決心をした一連の流れについて語っていただきました。

日本では、ものごとを批判すると「ぶつぶつと文句を言ってみっともない」と言われてしまいましたが、アメリカでは発言しなければ存在感が無くなってしまおうというギャップに直面していたとの事です。

米谷氏は、抽象画では社会に対して訴えられないとフラストレーションを持つようになり、社会に対してより影響力の大きい執筆を始めました。

母国語で書くには小説が良いと考えた米谷氏は、外国で育った少数民族の女性の目で見えたアメリカ文化、ユダヤ文化、ハンディキャップの文化、少数民族の文化をテーマに小説を執筆されています。

米谷氏は、「日本人は日本を出た途端に社会批評家になるし、外国に住むと日本の批評家になります」、「学生に美しい文章を書くにはどうすればよいのかと問われますが、重要なことは美辞麗句でなく、自分の言いたい事、大切に思う事を一生懸命に書く事が重要です」、「芸術に法則はなく、エネルギーのあることが肝心なのです」と指摘されました。

次に、現在危惧されている事として、表現の自由を奪いかねない事態が日米双方で進行している事、アカデミズムの中で核バランスだけを教えて、核兵器の破壊力について言及し生命については教えない事を述べられました。

イラク戦争が始まって以来、50歳代の人たちが反核運動に参加するようになりましたが、彼らのほとんどはベトナム反戦運動に加わった人たちとの事でした。それに対して、今の若者が無関心なのは戦争の残酷さを知ら

ないからで、戦争で真っ先に死ぬ立場にある若者たちに、戦争と核の恐ろしさを教える必要がある事を説かれました。大学での反核展示会の準備に加わる学生は少数ではあるものの、若者のエネルギーに期待できる事、その運動の中で、科学者には毒を盛らない事、技術者には武器を造らない事を訴えて行きたいと述べられました。

最後に、米谷氏の願いについて語られ、子どもたちが平和の内で育つ環境作りが米谷氏の本当の願いだと述べられました。また日本においては、憲法第9条が絶対に大切であるという指摘をいただき、講演は締めくくられました。

講演後の質疑応答では、憲法第9条と自衛隊という理念と現実のギャップ、若者の無関心さ、草の根運動の実践の大切さについて述べられ、現代社会の危うさを浮き彫りにするものとなりました。本講演会は、緊張感と勇気を与えられる素晴らしい時間であったといえます。



シンポジウム

「次世代出版を考える」

「活字文化のオープン・プラットフォーム化による出版の新しいビジネスモデル」

2005年11月29日(火) 午後2時～午後5時30分

東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

第1部 現在の出版周辺事情

1. 電子ブック

「電子文庫パブリ5周年」を迎えて―出版社自社運営サイトを開設した理由と今後の展望について

細島 三喜 (光文社 デジタル事業部長/電子文庫出版社会幹事)

2. オンデマンドブック

(1) コンテンツワークスの設立目的と実際

吉井 順一 (講談社デジタル事業局長/コンテンツワークス代表取締役社長)

(2) オンデマンド版の「中公文庫ワイド版」の展開

伊藤 彰彦 (中央公論新社書籍編集局局長/中公文庫編集部部長)

第2部

次世代出版を考える ― 活字文化のオープン・プラットフォームの提案

1. 電子ブック

「パソコン―専門読書端末」の運動

佐藤 真 (松下電器産業株式会社パナソニックシステムソリューションズ社 電子書籍事業グループマーケティングチーム チームリーダー)

2. オンデマンドブック

店頭オンデマンドマガジンから小ロット製造「本」への展開

亀井 雅彦 (コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社 オンデマンドイメージング事業部長)

3. データ制作

データ制作と多角展開をサポートする低価格「DTP」ソフトの協働開発プロジェクト

竹尾 克巳 (株式会社エフテル竹尾代表取締役社長)

4. 電子ブック、オンデマンド、本の「活字文化のオープン・プラットフォーム」の構築による新しい活字ビジネスモデルのデザイン

多田 宏 (キヤノンシステムソリューションズ株式会社 商品事業統括本部ドキュメントシステム部部長)

袁 福之 (城西国際大学ビジネスデザイン研究科長)

司会…高木 利弘 (株式会社クリエイション代表取締役/早稲田大学非常勤講師)

主催…城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科

メデア学部・情報科学研究センター

共催…電子文庫出版社会(電子文庫パブリ)

後援…コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

松下電器産業株式会社

株式会社エフテル竹尾

キヤノンシステムソリューションズ株式会社

ダイナコムウェア株式会社

株式会社ビー・アール・オー



学校法人城西大学創立40周年・城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科開設記念および電子文庫出版社会のWebサイト「電子文庫パブリ」開設5周年を記念して、シンポジウム「次世代出版を考える―活字文化のオープン・プラットフォーム化による出版の新しいビジネスモデル」が、11月29日(火)に東京紀尾井町キャンパスで開催されました。

当日は本学の教員や学生だけでなく、出版関係者約160名も参加して、最先端の事例報告と活字文化の提言がなされ、出版業界が注目するシンポジウムとなりました。

シンポジウムは2部で構成されました。第1部では、電子文庫出版社会幹事の細島三喜氏(光文社デジタル事業部長)から電子文庫出版社会とそのWebサイトの設立の経緯が報告されました。電子文庫出版社会は出版元として、日本の電子書籍をリードする活動を行っています。

続いて、吉井順一氏(講談社デジタル事業局長)と伊藤彰彦氏(中央公論新社書籍編集局次長)からは、電子書籍およびオンデマンド



袁福氏

出版に関する取組みの現状と課題について報告がなされ、電子書籍の規格統一と新しい市場の形成の必要性が提起されました。

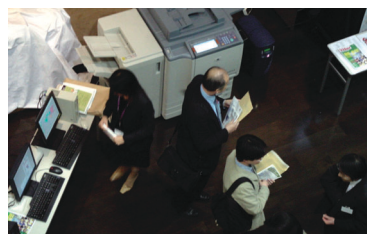
第2部では、「次世代出版を考える―活字文化のオープン・プラットフォームの提案」をテーマに、現在、城西国際大学大学院ビジネスデザイン研究科が進めている産学協働プロジェクトに関する報告と新たな産学連携の提案がなされました。

松下電器株式会社の佐藤真氏はドットブック規格による電子書籍の展開について論じ、コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社の亀井雅彦氏は発展著しいオンデマンド出版について報告しました。

株式会社エフテル竹尾社長の竹尾克巳氏とキヤノンシステムソリューションズ株式会社の多田宏氏は、一般の方でも本や雑誌を制作できる低価格DTPソフトが開発中であることを説明しました。

袁福のビジネスデザイン研究科長は、電子書籍とオンデマンド出版におけるオープン・プラットフォームの構築の必要性を訴えると同時に、電子書籍規格TTV2.0の仕様をはじめて公開し、「学術かつ非営利」の条件のもと無償に配布できることを報告しました。

また、本シンポジウムの趣旨に賛同し会場に駆けつけた作家小松左京氏は、水田宗子理事長に表敬訪問し、「小松左京



全集」を本学管理のもとで電子書籍とオンデマンド出版で展開することを表明しました。このシンポジウムで明らかになった様々な提言や取組みは、出版業界に大きな影響を与えています。出版界の専門紙「新文化」は一面トップで、マスコミ界の専門紙「文化通信」にも詳しく紹介されました。



水田理事長（中央右）と小松左京氏（中央左）



シンポジウム

「未来の医療 薬学教育で出来ること」

「健康できれいに生きる」

2005年12月3日（土）午後1時30分～4時
東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

パネリスト：天野 恵子（千葉県衛生研究所長、千葉県立東金病院副院長）

上野 光一（千葉大学大学院薬学研究院教授）

相場 節也（東北大学大学院医学系研究科教授）

和田 誠基（城西国際大学薬学部教授）

司会：中島新一郎（城西国際大学薬学部教授、薬学部長）

兄玉 庸夫（城西国際大学薬学部教授）

主催：城西国際大学薬学部

後援：社団法人 日本病院薬剤師会

2005年12月3日（土）午後1時30分より東京紀尾井町キャンパスB1Fホールにおいて、学校法人城西大学創立40周年記念・東京紀尾井町キャンパス開設記念シンポジウムとして、城西国際大学薬学部主催・社団法人日本病院薬剤師会後援の「未来の医療 薬学教育で出来ること 健康できれいに生きる―性差医療の風―」が開催されました。

パネリストに、千葉県衛生研究所長・千葉県東金病院副院長の天野恵子氏、千葉大学大学院薬学研究院教授の上野光一氏、東北大学大学院医学系研究科教授の相場節也氏、城西国際大学薬学部教授の和田誠基氏の4名をお迎えして、城西国際大学薬学部教授・薬学部長の中島新一郎氏と同教授の兄玉庸夫氏を座長としました。

当日は、多くの一般参加者および城西大学や城西国際大学の教職員、学生の参加のもと、超高齢化社会並びに高度医療化社会において、人々が健康で生き生きときれいに生きるためにはどうしたらよいか、それぞれのパネ

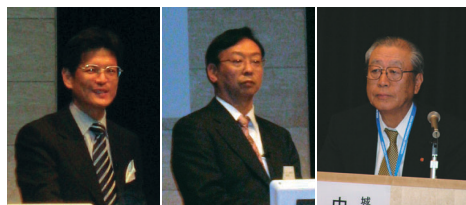
リストの講演を通じて考える機会となりました。

天野氏は、「性差医療のめざすもの―その現状と展望」と題して、性差医療（Gender specific Medication）の目的と、この理念の生まれた背景、そして海外での実践について述べられました。

上野氏は、「くすりの効き方と性差―個別化医療に向けて」として、薬物治療において、効き目や副作用の出力になぜ男女差が生じるのかをわかりやすく解説していただきました。

相場氏は、「すこやかな肌のために―皮膚の病気を知る」として、皮膚癌自己検診のすすめ、皮膚癌で死なないための6箇条（1. 痒くない皮膚病は皮膚癌を疑え、2. 治り





和田 誠基氏

上野 光一氏

中島 新一郎氏



相場 節也氏

天野 恵子氏

にくい湿疹は皮膚癌を疑え、3. 治りにくい皮膚潰瘍は皮膚癌を疑え、4. 黒いイボは皮膚癌を疑え、5. 成長するイボは皮膚癌を疑え、6. 皮膚癌を疑ったなら皮膚科専門医を受診しろ、一般的な皮膚癌についての解説、正しい皮膚科受診のことを述べられました。

和田氏は、「じょうぶな骨を保つには——骨粗鬆症の予防と治療」として、なぜ骨粗鬆症が問題なのか、閉経後の骨吸収と骨形成のバランスについて、代表的な薬物治療における治療薬の使い分けについてお話されました。

「健康できれいに生きる」という身近なテーマのためか、参加者は非常に熱心に各パネリストの話に耳を傾けていました。



シンポジウム

「未来の医療 薬学教育で出来ること」

医療におけることと技術

2005年12月10日(土) 午後2時～午後5時

東京紀尾井町キャンパスB1Fホール

講演

1. 「医療におけることと技術」
中島 宏昭 (昭和大学医学部教授)
2. 「有機の光で未来を照らす——先端技術と創造教育——」
城戸 淳二 (山形大学工学部教授)

パネルディスカッション

パネリスト…中島 宏昭 (昭和大学医学部教授)

城戸 淳二 (山形大学工学部教授)

中島新一郎 (城西国際大学薬学部部長)

杉林 堅次 (城西大学薬学部教授)

司会…白幡 晶 (城西大学薬学部部長)

主催…城西大学薬学部

後援…社団法人 日本病院薬剤師会

2005年12月10日(土)、東京紀尾井町キャンパスB1Fホールにおいて、城西大学薬学部主催のシンポジウム「未来の医療 薬学教育で出来ること——医療におけることと技術——」が開催されました。昭和大学教授の中島宏昭氏と山形大学教授の城戸淳二氏をお招きしたほか、城西国際大学の杉林堅次教授にもパネリストとして参加していただきました。

当日の参加者は、一般40名、教職員60名、大学院・学部学生60名であり、ホールが満席となり盛況でした。

シンポジウムは城西大学の田中昭学長よりご挨拶を頂いて、白幡晶城西大学薬学部部長の司会で始まりました。

医学教育のみならず薬学教育にも多大なご



尽力を頂いている中島宏昭氏により、「医療におけることと技術」というテーマで、これから目指すべき医療のあり方について講演がなされました。

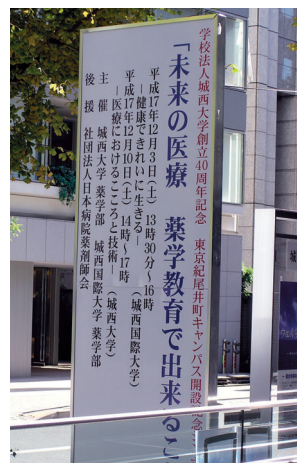
中島宏昭氏は、これまでの知識中心の教育から、知識や技能の他に態度教育が大切であることを、多くの事例を紹介しながら説明されました。これからの医療の流れが、患者の個人差を理解して患者と気持ちをつかち合い、共に生きるという方向に進みつつあること、患者の人生がボ

ジティブになるように働きかけることが医療人としての努めであることを説明されました。また、難病を抱える患者の多くが、充実した人生を生きたいと望んでいることを穏やかな口調で述べられました。中島宏昭氏のお話を聞き、何か胸にこみ上げてくるものを感じました。

続いて、有機EL (エレクトロルミネッセンス) 素子で、今や世界的にも著名な日本のエジソンとも称される城戸淳二氏により「有機の光で未来を照らす——先端技術と創造教育——」というテーマで、有機EL素子開発とご自身の経歴を踏まえた教育理念について講演がなされました。

現在のディスプレイ業界は液晶全盛の時代ですが、発光材料が有機物で熱の出ない超高効率発光の有機ELは、薄いシート状のテレビや照明用の光源として実用化が着実に進んでいる最先端技術の一つです。このような画期的な研究開発に、創造教育がいかに大切であるかを力説されました。また、ご自身の学歴をユーモア一杯で紹介され、勉強嫌いの城戸氏がたどった軌跡でのターニングポイントがニューヨークの大学であったこと、そこから一念発起して現在の城戸氏があるとのことでした。バイタリティーに溢れ、随所にユーモラスな説明がちりばめられたお話でした。

シンポジウム後半では、司会の白幡薬学部長から2006年度の薬学教育6年制への移



●周辺図



アクセス インフォメーション

- 地下鉄有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩3分
- 地下鉄南北線 永田町駅 9番出口より徒歩5分
- 地下鉄丸の内線・銀座線 赤坂見附駅 弁慶口より徒歩8分
- JR中央線・総武線 四谷駅より徒歩10分



中島 宏昭氏



城戸 淳二氏



中島 新一郎氏



杉林 堅次氏



白幡 晶氏

行に伴い、教育に対する考え方も大きく変わるという予測から、こころと技術との観点から薬学教育をどう考えたらよいのかという趣旨説明をいただき、パネルディスカッションが行われました。

医療に携わる人材養成について、人は評価されると態度を変えることから、人を育てるためには技能や態度も評価することが大切であるとの中島宏昭氏からのご指摘がありました。中島新一郎氏は、6年制に移行しても薬学教育は本質的には変わらず、ゆとりを持って教育にあたることが人材育成につながるとの意見でした。

また、医療の場におけるオリジナリティー教育の必要性については、各氏とも肯定的でした。杉林氏からは、卒業する時にはオリジナリティーを持つている人を育成したいという意見がありました。中島新一郎氏が説いている患者とのふれ合いを作る教育や、中島宏昭氏の体験を積極的に伝えることがオリジナリティー教育につながると思われます。城戸氏からは、教育者が夢を語り、夢を与えて、学生を刺激することが創造教育では大切であるということ提唱され、家庭教育の重要性も強調されました。

最後に、中島宏昭氏と城戸氏に感謝の意を添えて花束を贈呈し、大盛況の中で無事終了しました。3時間という短い時間ではありましたが、これからの薬学教育を考えていく上で、多くの示唆に富んだ内容であり、充実したシンポジウムでした。

部長が、我が国の大きな課題である教育、医療、科学技術に関して、本シンポジウムが扱った内容が一般の参加者の方々にもご理解いただけたと思われること、また城西大学薬学部と城西国際大学薬学部は、共に医療に向けて社会貢献をしたいと強く考えていることを述べられ、結びの言葉となりました。

学校法人 城西大学

城西大学／城西短期大学 **城西国際大学**

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26 TEL.03 (6238) 1300

学校法人 城西大学 <http://www.josai.jp/>

城西大学 <http://www.josai.ac.jp/> 城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

学校法人 城西大学 国際学術文化振興センター

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-26

TEL 03 (6238) 1300 FAX 03 (6238) 1299